

みらい図書だより

No.4 (2016.11)

発行：東京未来大学図書館

〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12 TEL：03-5813-2540 (内線 1202) FAX：03-5813-2529
URL：http://www.tokyoumirai.ac.jp//library/ 印刷：上武印刷株式会社

図書館と私

こども心理学部 とも保育・教育専攻長 宅間 雅哉

図書「室」ではなく、私が身近に図書「館」と接するようになったのは、高校2年の8月半ばからでした。夏の暑さに耐えかねて自宅を飛び出し、「きっと冷房で涼しい！」と期待して入ったのが高知市民図書館でした。お城の水堀をはさんで、県庁に向かって建つ市民図書館。その閲覧室は広々として静寂に包まれ、人はみな真剣な眼差しでページをめくっていました。夏休み最終日まで毎日通いましたが、閲覧室の窓はその間ずっと開放され、結局冷房が入ることは一度もありませんでした。それでもなぜか心は清涼感に満ち、受験勉強が大いにはかどりました。

図書館の蔵書と本格的に格闘するようになったのは、やはり学部生の頃からでした。レポートや論文作成のため、当時は絶対に買うことのできない貴重な辞書や専門書に囲まれる喜びの中、閉館時間直前まで粘ったものでした。

2013年9月、私はイギリス南西部のDevon Heritage Centreを訪れました。図書館というよりも公文書館と言った方が正確かも知れませんが、目的はCheriton Bishopという地区の土地台帳(Tithe Award：タイス・アワード)と付属の地図

(Tithe Award Map)を閲覧することでした。これらは19世紀半ばの歴史的文献なのですが、事前の申請や紹介状など一切なしで実物を見せてくれました。手渡された土地台帳は、研究社の『大英利』4冊を縦横に2冊ずつ並べたほどの大きさと厚さ、地図は完全に広げるとほぼ和室6畳分のサイズになりました。このような貴重な文化財の実物を、一介の旅行者に過ぎない私にさえ、“No problem!”と言って閲覧させてくれた現場の「懐の深さ」には、素直な驚きと敬意、そして深い感謝の念を抱かずにはいられません。閲覧の間は昼食も忘れ、一心不乱に土地台帳から研究対象となる地名を拾い、それらの位置を地図で確認しました。まさに私自身が、当時のCheriton Bishop地区を旅して、現地の景観を満喫した時間でした。

図書館の中には、館外とは異なる非日常的な時間が流れています。それは、皆さん一人ひとりに普遍的な価値をもたらしてくれる時間でもあります。在学中、この未来大の図書館で、是非そうした時間を過ごしてください。



東京未来大学今昔物語 その3

エンロールメント・マネジメント局経理係 佐久間 絵里子

2016年度となり、東京未来大学が開学して10周年を迎える年度となりました。普段EM部から出ることの少ない私ではありますが、当時の学内と図書館の様子を振り返ってみたいと思います。

10年前、開学当初はこども心理学部のみで学生数も1学年だけ。教職員数も50名弱。普段学生と接することの少ない私でさえ、ほとんどの学生の顔と名前が一致するほどでした。授業時間中は学内に人影もなく静かで、ご近所の方が散歩途中に休憩していることもしばしば。全体的に閑散として長閑な雰囲気でした。現在あるB棟の場所には建物がなく、当時はグラウンドでしたがほとんど使われていませんでした。休憩時間になっても今とは比較にならないほど雰囲気はゆったり。春などカフェテリアのテラスから桜の花びらが舞い散る様子を昼間から静かに眺めることができました。当時の図書館も学生より教員利用の方が多かった。休暇期間中など1日誰も利用しない日が珍しくなく、急ぎよ休館日が増えても特に問題にもなりません。

5年前にモチベーション行動科学部が新設され、2学部になりました。それに伴い学生数・教職員数も増加。かつてグラウンドだった場所にB棟の建物ができ、つくばエクスプレス線六町駅にテニスコートやグラウンドが新設されました。学内はどんどん活気づいていきます。この頃の図書館は、まだ静かなままでした。利用者数が全くいないわけではありませんでしたが、蔵書数

も3万冊程度で教員と一部の学生が利用しているような状況でした。試験期間直前になると閲覧スペースに人影が増えましたが、それ以外は閑散としていました。学内は人が増え活気に溢れた雰囲気なのに、図書館だけ置いてきぼりにされたような空間でした。

東京未来大学図書館の転機となったのは、4年前。図書館の体制が見直され、福崎淳子教授が図書館長に就任されました。そこで卒論以外で図書館を利用したことのある学生が少ないこと、図書館利用者の多くがPCの貸出やプリンタ使用で来ていることなどがわかりました。ここから図書館の改革がスタートします。目指すは活気ある図書館です。1・2年生の図書館利用者が少ないことから、オリエンテーション等で図書館の利用方法について周知したり、図書館のホームページを開設したりしました。開館時間を20時まで延長し、長期休暇中も開館日を増やしました。この「みらい図書だより」も創刊されました。利用者数は開設時の10倍に増え、蔵書数も現在は4万8000冊程度まで増加しています。開学10周年を迎えた今、図書館もまた、福崎館長はじめ司書の方々、図書館管理・運営委員の先生方の努力により驚くほど活気に満ちています。閲覧スペースや蔵書スペースを検討しなければならぬほどです。

ぜひ皆さん、図書館をたくさん利用してください。利用者数が今後どんどん増えたら、今は1フロアしかない東京未来大学図書館も将来2フロアに拡張されるかもしれません。

司書のつぶやき

図書館司書 伊藤 結美

今回は日本一の図書館、国立国会図書館（National Diet Library）について紹介します。国立国会図書館は、昭和23年（1948年）に設立された日本で唯一の国立図書館です。国会法第130条「議員の調査研究に資するため、別に定める法律により、国会に国立国会図書館を置く」の規定にもとづき、国立国会図書館法により設置されています。

現在所蔵している資料は東京本館（東京都・千代田区）、国際子ども図書館（東京都・台東区）、関西館（京都府）を合わせておよそ4100万点。日本国内で出版されたほぼすべての出版物を収集・保存する法定納本図書館です。

名前からすると敷居の高そうな国立国会図書館ですが、満18歳以上であれば誰でも無料で入館できます。本人確認の書類を持参して利用者登録をすれば、利用者カードが発行されます。



館内の資料は基本的に閉架書庫に保存されており、自分で直接本棚を探し回ることはいけません。

検索用端末があるので、そこから目的の資料を申し込みます。係りの人が探して持ってきてくれるので受け取りカウンターで受け取ります。また、コピーサービスもあり、係員にページを指定してコピーしてもらいます。（ちょっと高めですが…）

パソコンの持ち込みも可能で、無線LANもあります。調べもので困ったら、是非利用してみてください。膨大な資料の中にきっと目当てのものが見つかるでしょう。まずは国立国会図書館のHPで資料検索をしてから行くとスムーズです。

また、国立国会図書館には一般の図書館にはない珍しい資料だけでなく、漫画や雑誌などもおいてあります。週刊少年ジャンプの第1号やコロコロコミックの創刊号、また、絶版本や1930年頃の発禁本なども手に取って見ることができます。（マイクロ化されている場合もあります。）

館内には食堂や売店もあり1日中いることができます。本好きにはたまらない施設です。是非、足を運んでみてください。

最後に…なぜ国立国会図書館には“国会”とついているかご存知でしょうか？国立国会図書館には資料の収集・保存のほかに、国会議員の調査や情報収集、サポートをするという役割があるのです。先述の「議員の調査研究に資する」ということです。そのため、国会議員に依頼された調査を行う部署もあります。これが“国会”がつく理由なのです。

ライフステージごとの「一冊」

思い出の本・忘れられない本

東京未来大学の先生方ご自身が人生の節目、節目で影響を受けた本、思い出に残る本を紹介します。

- ①私の10代（少年期）の一冊
- ②私の20代（青年期）の一冊
- ③私の30代（壮年期）の一冊

● 岡本 明博先生（こども心理学部）

①『五輪書』宮本武蔵

高校時代、剣道に打ち込んでいたころに読んだ本です。極限状態でも平常心を保ち、相手を観察し、心を読み取るという勝負の奥義を知りました。

②『幼児の秘密』マリア・モンテッソーリ

障がいのある子どもの保育について考えていたころに出会った本です。徹底的に子どもから学ぼうとする著者の教育者としての姿に魅了されました。

③『自閉症の僕が跳びはねる理由』東田直樹

自閉スペクトラム症の若者が書き綴った本です。当事者の内面を知り、大きな衝撃を受けたことを記憶しています。

● 川原 正人先生（こども心理学部）

①『伊達政宗』山岡荘八

NHK大河ドラマの原作となった作品。他の作者と読み比べて違いを発見するという面白さを教えてくれました。

②『星の王子さま』サン＝テグジュペリ

この絵本を題材に心理学の授業を行った先生がおり、心理学の面白さを考えさせられるきっかけとなりました。

③『神話の力』ジョーゼフ・キャンベル

映画「スターウォーズ」が好きな人はこの本を読むと物語にこめられた深い意味が理解できます！





おすすめの1冊 『ラグビー日本代表を変えた「心の鍛え方」』 荒木香織 講談社+α新書

こども心理学部 こども心理副専攻長 藤後悦子

私はスポーツ観戦が大好きです。特に南アフリカのラグビーワールドカップ優勝を取り上げた映画『インビクタンス』のように、スポーツを通して人々が誇りを抱き、人種を超え強い連帯感を持つことに共感します（残念ながら、カウンセリングの中ではスポーツの望ましくない姿と出会うことも多いのですが…）。

スポーツを通して築き上げる人間としての「誇り」。これこそが本書の著者である荒木香織さんが、ワールドカップで南アフリカに歴史的勝利をもたらしたラグビー日本代表のメンタルコーチとして取り組んだことです。この話をスポーツ心理学会の研修会で伺った際、ぜひ実際のメンタルコーチングの様子が書かれている本書を読みたいと思うようになり、すぐに入手しました。

荒木さんはメンタルコーチングを行う際、心理検査で選手をアセスメントするなどの方法は一切用いていません。リーダーズグループを立ち上げ、自分たちの課題は自分たちで考え自己決定するというマインドセットを大切にしました。そ

して、そのリーダー達が他のプレイヤー達を引っ張っていくシステムを作っています。

前述した「誇り」に関していえば、日本代表の選手の多くは外国人でした。他の国で生まれ育った選手に日本代表としての「誇り」を持ってもらう、これが最初のテーマだったそうです。そのための一つの方法として、試合開始時の国歌斉唱を代表としての「誇り」を持って歌う。そのために君が代の意味を皆で考え、歌詞が表現されている風景を皆で見に行くなどの工夫をしたそうです。こうして徐々に代表としての「誇り」、そしてチームとしての一体感を伴った「勝ちの文化」を作り上げたそうです。

その他にも、この本では、最高のパフォーマンスを発揮する方法、自分に自信をつける方法、目標を達成する方法などが書かれており、本書の中で紹介されているツールは、スポーツにかぎらず、大学生活や勉強、就活などにおいても応用できます。ぜひ一読して、活用してみてください。

図書館からのお知らせ

▶ 図書館常設展示品

- 東京未来大学校歌「輝く水辺」原譜
- 小山内美江子氏の直筆書簡及び FAX

東京未来大学は、テレビドラマ「3年B組金八先生」の舞台跡地に建てられました。そのご縁で、校歌の作詞を脚本家小山内美江子氏（本学客員教授）に、作曲を上條恒彦氏に依頼しました。写真は、校歌原譜と校歌完成を報告する小山内美江子氏の直筆書簡と歌詞の変更を知らせるファックスです。



（東京未来大学校歌「輝く水辺」
作詞 小山内美江子 作曲 上條恒彦 編曲 宇賀神典子）

● 郭 潔蓉先生（モチベーション行動科学部）

- ①『赤毛のアン』 L.M. モンゴメリ
可愛い書名に惹かれて手に取りました。少し年上の女の子の日常がとても輝いていて、全シリーズを読破しました。
- ②『The Joy Luck Club』 Amy Tan
華人系アメリカ移民2世の20代の女性4人とその母親との葛藤を描いた名作です。文章表現が心に響きました。
- ③『国家の品格』 藤原正彦
米国式市場経済原理の危うさと日本社会本来の良さを再確認できる一冊です。きっと、また読み返したくなります。



● 安藤功一先生（エンロールメント・マネジメント局）

- ①『Good Luck』 アレックス・ロビラ、フェルナンド・トリアス・デ・ベス
人生における“幸運”について、54年ぶりに再会した幼馴染をもとに迫っていきます。中学3年生の冬に、担任の先生から勧められて読んだ思い出の1冊です。
- ②『流星の絆』 東野圭吾
TBSでテレビドラマ化されたのでご存知の方も多いのではないのでしょうか。様々な伏線が回収される面白さに加え、3兄妹の絆にはまり、一気に読み終えたのが懐かしいです。
- ③『多元化する「能力」と日本社会』 本田由紀
コミュニケーション能力の重要性が強くなり始めた学生時代に読みました。客観的に数値化できない能力とそれを取り巻く環境にスポットを当てた一冊です。

● 2016年度〈東京未来大学図書館の主な行事（11月以降は予定）〉

4月	・新入生および在学生対象の図書館利用説明会（3月） ・学外者の図書館利用開始	11月	・「みらい図書だより」発行 ・第3回ビブリオバトル
5月	・第1回ビブリオバトル ・文献検索研修会（学生対象）	2017年 3月	・FD委員会との共同研修会（教職員対象） ・第3回ポローニャ世界の絵本展 ・第4回ビブリオバトル
7月	・第2回ビブリオバトル		

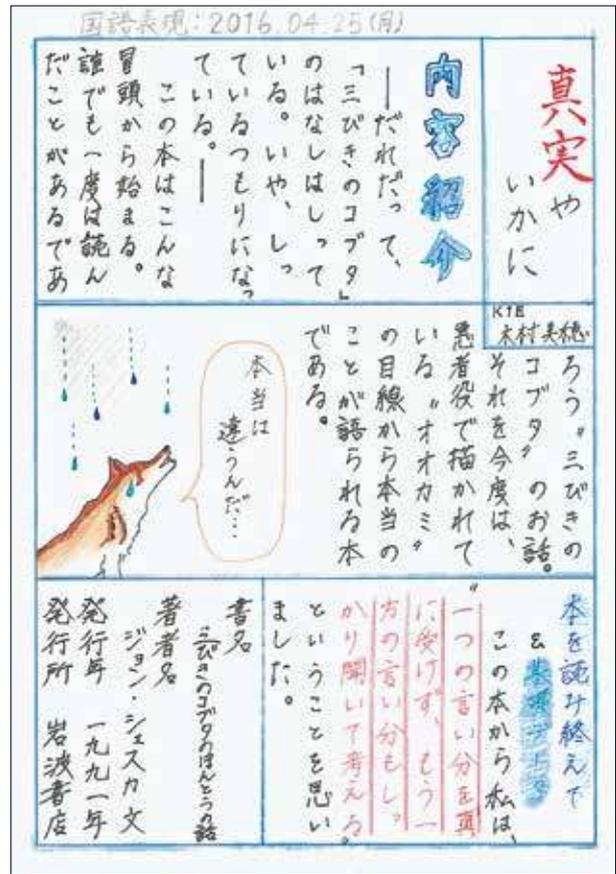
※図書館は、原則、平日は9時から20時まで開館しています。ただし、行事により開館時間が異なりますので、詳しくは、図書館のホームページでご確認ください。
※「ビブリオバトル」は、本学学生の「NPO団体Book Link」の皆様にご協力を頂いて実施しています。

図書館にある本

学生作品から



ピシガル サフラさんの作品



木村美穂さんの作品

編集後記

本学図書館の運営もようやく軌道に乗ってきた。昨年度の利用者数は、延べ2万5千人。ここ数年間で約5倍に増えた。開館時間も延長した。蔵書は現在4万8千冊。ここ数年間で1万冊増えている。ポローニャ世界の絵本展やビブリオバトルなどの行事も定着した。今年度からは、地域社会貢献として学外者利用も始まった。環境整備の内実も進化した。今後、さらなる質的充実を図りたい。図書館でどのようなことをしていけばよいのか。そのような意味合いで、今号では行事予定を掲載した。
(神部秀一)